

京都大学薬学部 SGD 演習レポート
第3回 コミュニケーション入門 2

授業実施日：2018年4月25日（水）4限・5限

担当教員：石濱泰教授・高須清誠教授

対象学生：薬学部1回生83名

場所：医薬系総合研究棟2階 講義室A・C、（講義室22・23）

授業の目標

第3回の目標は、第2回に引き続いて、「コミュニケーション能力の育成」でした。前回扱った「傾聴スキル」に続いて、今回は、EQ（心の知能指数）の概念を中心に授業が行われました。1回生83名を4クラスに分けて実施し、1クラスあたり20名ほどで授業が行われました。

授業の場面

1. EQの測定と説明

参加した学生に自分のEQを測ってもらうことから始めました。各自のEQを報告してもらった後で、EQを構成する4つの能力として「感情の識別」「感情の利用」「感情の理解」「感情の調整」が紹介されました。

2. ワーク1：人事通告

① 説明およびワーク

「自らが人事担当となって、新しい部署の立ち上げのためのメンバーを候補者7人（A～G）の中から3人選ぶ」というシナリオでワークが始められました。

学生は、まず自分で候補者7人から3人を選んで順位をつけ（5分）、グループ



ワークの中でメンバーと話し合いながら

（30分）、グループとして最後に提出する人事案を考えました。特に、グループ

の他のメンバーの話を書く際には、「これまでに学習した傾聴スキルを使うように」との指示が出されました。その後、グループで決定した人事の順位を、各グループがその理由とともに全体で発表しました（1グループ3分）。

② グループワーク前後での自分の意見の変化の解釈

グループでの議論の前後で、自分の考える人事の順位が、グループで出した最終的な順位とどれだけずれているかを学生に考えさせました（5～10分）。自分が最初に考えていた順位とグループで決めた順位が近い場合には、そもそも自分の考えていた順位がグループのそれと近かったという解釈もできれば、自分の意見をグループに押し付けたという解釈も可能だ、というように、順位の「ずれ」が持つ多様な意味についての説明がなされました。これにより、学生には、グループワーク中の自身の行動について振り返る機会が提供されました。

③ ロールプレイ

人事担当が、異動対象者を、EQ を使いながら納得させるロールプレイを行いました（3分×2組）。人事担当を演じた学生は、説得することの難しさを感じているようでした。

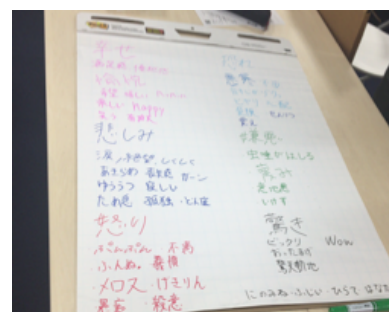


担当教員からは、説得の際に「言葉に頼りすぎているのではないか？」「二者択一の質問ではなく、オープンクエスチョンにして相手の気持ちを引き出す方法が有効だったのではないだろうか？」といったコメントがなされました。

④ 教員のコメント

担当教員より、コミュニケーションにおいて EQ が発揮できているか知るために「相手がいまどんな気持ちかを識別しているか？」「自分の感情に振り回されることはないだろうか？」ということ自分を問いかける方法が紹介されました。次に、EQ を鍛えるために、「鏡に映る自分を観察する」「ノン・バーバルスキルを磨く」などといった具体的な方法が紹介されました。

3. ワーク 2：相手の今の気持ち



① 「感情」言葉のワーク

「幸せ」「悲しみ」「怒り」「恐れ」「嫌悪」「驚き」という6つの感情に当てはまる言葉を最低10個ずつ出すワークが行われました（10分～15分）。これにより、相手の感情をより理解出来るようになることが目指されました。

② 相手の気持ちをつかむワーク

2人一組になって、一方が話し手として自分の「今の気持ち」を伝え、他方が聞き手となって、相手の話を理解するというワークが行われました（2分×2）。特に聞き手側には、「できるだけ正確に話し手の感情を識別し、理解するように努める」ことが求められました。



③ まとめ

最後に、担当教員より「EQは意識すれば伸びるため、努力して伸ばして円滑なコミュニケーションをしていけるようにしましょう」という激励があり、授業は終了しました。

印象に残った点

今回で計2回、コミュニケーション能力に関する授業が行われました。その中で学生たちは相手に「伝わる」ように話すことを学ぶとともに、どのようにして「聞く」ということを大いに学んでいる印象を受けました。

象徴的だと感じたのは、今回の授業の最後のワークにおいて、「今の気持ち」として、ポジティブなものだけではなく、「さみしい」といったネガティブな感情も交えつつ話している学生がいたことでした。これは、これまでの授業を通じて、聞く側の学生にも、そういった普段は言いにくいネガティブな気持ちまでも引き出すスキルが備わりつつあることを示しているようでした。

記事作成者：高等教育研究開発推進センター研究員 長沼祥太郎

監修：高等教育研究開発推進センター教授 松下佳代